

インターバンクの声（2017 年 4 月 11 日）

前週末、雇用の伸びが低調だった米雇用統計の発表後にドルが一時的に下落したが、またしても 110 円 10 銭台で下げ止まった。その後、ニューヨーク連銀ダドリー総裁が「FRB は年内にバランスシートを縮小させる可能性がある」とした自身の 3 月末の発言が一部で誤って解釈されたと述べ、市場がドルを買い戻すきっかけになった。ダドリー総裁は「金利の引き上げを休止する」と発言したのは非常に短い休止で、しかも「金融政策の主要手段は短期金利でバランスシートではない」と発言したことで低下していた米長期金利が上昇し始めたことが背景となった。

ただ、ドルの反発も 111 円 50 銭台までに留まっており、4 月に入って 10 日が過ぎたドル円の取引レンジは、110 円 10 銭台から 111 円 50 銭台までのままだ。

シリア、北朝鮮の地政学リスクは依然として強く、ダドリー総裁発言について何らかの言及があるのではと注目されたイエレン FRB 議長の講演もバランスシートについて触れることはなかった。

拮抗した相場展開が長引いており利食いも普段より早めになっている。こうなると相場の反転も余計早まることが多く、暫くはレンジから抜け出せそうもない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。